プログラミング演習Ⅰ　レポート

課題3．数値解析法

|  |  |
| --- | --- |
| 学籍番号 |  |
| 氏名 |  |
| 提出日 | 令和 |  | 年 |  | 月  |  | 日 |  |
| 書式修正版提出日 | 令和 |  | 年 |  | 月  |  | 日 |  |

**【チェック項目】　---------------------------------------------------------**

以下の項目を確認し，正しく記載されている場合は○，記載されていない場合は×をつけ，記入漏れがないようにすること(※の実施は必須ではないが，下記表への記載は必須)．またオプション課題の実施は評価に影響します．

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 自己チェック |
|
| 表紙に必要事項を記入した． |  |
| 課題全体の概要を記述した． |  |
| 各課題の目的と概要を記述した． |  |
| 課題の実現方法を正しく記述した． |  |
| ソースを載せた．ソース（インデント，行番号など）は見やすくした |  |
| 変数の説明を記述した（ソースにコメントとして記入すればよい） |  |
| 実行結果を載せた（全ての実行結果について画面をダンプして載せること★。 |  |
| 課題3-2二分法 実行結果の表を載せた． |  |
| 実行結果について説明した． |  |
| 考察を記述した（考察は感想ではない。感想は別に述べる）． |  |
| 図表には番号・キャプションを付けて，本文中で参照した． |  |
| ページ番号を付けた． |  |
| 参考文献を正しい書式で1つ以上記入した． |  |
| ※取り組んだオプション課題の個数を記入してください（ない場合は0） |  |
| ※本課題に対する感想・意見を記述した． |  |

★スクリーンショット機能等を使い，プログラムの実行とその結果がわかるような画面を図として載せること．

# 注意点：青字は全て消して作成すること！！

# 課題3レポートの概要

課題3の目的と内容について簡潔に記述する。

# 疑似乱数の分布

## 目的と概要

この課題の目的を記述する。

## 実現方法

どのような手法、アルゴリズムで実現したかを記述する。フローチャート図は必須ではない。

## ソースリスト

作成したプログラムのソースリストを示すこと。「スタイルの適用…」→「ソースコード（行番号付）」を選択すると行番号付きのスタイルにできる。

## 実行結果

プログラムの実行結果やグラフを図として示し、結果（得られた事実）の説明も必ず行うこと。図には図番号と適切なキャプションを付け、必ず本文中で参照する（本文に「図xは○○である。」などの説明文を入れる、という意味）。

## 考察

実験結果で得られた事実から考えられること（考察：自らの考え）を述べること。

## オプション課題 1

オプション課題１に取り組まない場合、本節は削除してよい。図表を載せる場合は本文中でも必ず参照すること。

## オプション課題 2

オプション課題２に取り組まない場合、本節は削除してよい。

# 二分法

## 目的と概要

## 実現方法

## ソースリスト

## 実行結果

図表に適切なキャプションを付けて、わかりやすく示すこと。

表1 これは例です

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| x1 | x2 | eps | sqrt |
| 1 | 2 | 1e-6 |  |
| 2 | 6 | 1e-6 |  |
| 2 | 1 | 1e-16 |  |
| -1 | 1 | 1e-6 |  |
| -1 | -2 | 1e-6 |  |

## 考察

# ニュートン法

## 目的と概要

## 実現方法

## ソースリスト

## 実行結果

## 考察

## オプション課題1

## オプション課題2

オプション課題に取り組まない場合は、本節は削除してよい。

# 感想

課題に取り組んだ感想、収穫、今後の目標などを記載。

# 参考文献

[1] 著者、題名、雑誌(出版社)名、巻、号、頁数、年など（レポート形式参照）を記載。